２００６．１２．７　ゼミ　野澤

モチベーション

行動を起こすためにはどんな機構が働いているのか？
恩蔵さんのフラットリワードコンディションと似ているけど、違うところは、常に行動しないという選択肢があるなかで、行動することを選んだり何もしなかったりする。近いイメージで言うとポアソン過程。何もしないことが許容される状況で何かするという選択をするための背景になる力学的なメカニズムとは？

行動開始関数＝＋（目的達成予測リワード）
　　＋（環境からの要求）
　　ー（予測される労力・不確実性）
　　ー（プランニングにかかる労力）
これが閾値を超えると行動にうつる

行動すること自体がリワードになる場合はどうなるのか？

ここでいうリワード：内観的なもの（お金やエサではなく）

以前紹介した論文は、goal-directed behaviourが持続する間、NAccのニューロンが抑制され続けるというものだった。

"遺伝子発現"と"神経回路の性質"と"行動的機能"の関係

例えば、Schizophreniaの人。
１．遺伝子発現：DNAメチル輸送体の発現がおかしい
２．神経回路の性質：GABAergicニューロンのGABAの量が減少
３．行動的機能：幻覚、妄想
１と２のつながりは物質的な基盤があるから調べられる
２と３は、２を調べることが現実的にできない（個別のニューロン同士の結びつきを調べなければいけない）から、そのつながりを探るのは難しい。
そこで、１と２のつながりから２を予測し、それを補完して３を生み出す回路構造を調べることができるのではないか。

ここで神経回路というのはコンデンサーとコイルが「振動・周期性」という機能を生み出す電気回路であるというのと同じような意味での回路で、脳内の領域間のつながりという意味の回路ではない。